

倶多楽火山

○大正地獄近傍における振動観測

2007年5月10日より、大正地獄の溢流口より10m下流の地点において、地震計を用いた振動観測を開始した。10日から15日までの間に、数回にわたってパルス状の震動からなる数時間継続する微動が観測された。観察結果や我孫子の観測結果と比較すると、これらの微動は熱水噴出や湯溜まりからの熱水流出と良い対応が認められた。微動振幅は時間とともに小さくなる傾向を示す。1994年に日和山(大湯沼北岸)で発生した熱水噴出に伴う微動振幅と比較すると、11日に観測された微動で同程度、これ以降の微動振幅はより小さい。また微動発生時の背景微動レベルは、その他の時間帯の背景微動レベルより小さいという特徴もある。

